

## 顧問会議と経営協議会との合同会議メモ

日時：2012年3月19日 午後4時10分—午後5時05分

場所：KKRホテル名古屋 芙蓉の間

出席者：

顧問会議委員	6名	欠席1名
経営協議会学外委員	4名	欠席1名, 欠員1名
経営協議会学内委員	5名	欠席なし

松田学長から、本学を取り巻く状況として、Ⅰ. 第二期2年目を終えるにあたって（国立大学の機能強化、東海地区8大学事務連携等）、Ⅱ. 2012年度国立大学と本学予算の特徴（本学の2012年度運営費交付金算出における国の考え方、収入・支出の特徴等）、Ⅲ. 本学の改革構想（共同博士課程、学部改組等）、Ⅳ. 第二期中期目標・中期計画期間（2011年度業務実績報告、教員の質向上策と教員養成機能強化）、Ⅴ. 入学試験状況、本学卒業生の就職状況について説明があった。

[主な質問, 意見] ●本学の説明等 ○顧問, 委員の意見等

- 学長の力強さを感じた。また、これまで大学が行ってきたことに対する成果が、雑誌社の大学ランキングで87位という形で上位にランク付けされたことに対して敬意を表したい。
  - 一つ質問したいのだが、9月入学問題で国大協での議論はどの様になっているのか。
- マスコミなどから各大学に秋入学に対するアンケート依頼があり、本学としては、「秋入学の賛否は『どちらでもない』としたこと」、「秋入学検討の有無は『どちらでもない』としたこと」、ほとんどの大学が同様の回答であったが、教育系大学では、「反対」で「検討は行っていない」大学もあった。国際的には9月入学が多いが、韓国は3月、オーストラリアは2月末となっている。
- 学部を改組するということであるが、教員養成を1つにまとめた理由は。
- 教員養成課程は、小中免許を原則義務化したい。
- 教員組織の変更もあるのか。
- 小規模な講座を一定規模にし、学生数を一つの単位で原則30人以上として効率化を図りたいとの理由から解消したいと考えている。
- 現代学芸課程のような新課程の学部化は、全国的になりつつあるのか。
- 全国的とは言えない。大学によって異なる。
- 連携してやっていければよいと思うが。
- 教員養成で連携を強化する教育大学はある。
- 教育方針についてお聞かせ願いたい。学校の先生は、精神的に病む人が多いと聞いている。社会の変化に柔軟に対応できる人材を養成することが必要ではないか。
- 本学学部の教育目標としては、「教員養成を主軸に教養教育を重視する大学」としており、社会の変化の中で学ぶためには、基となる力は「リベラルアーツ」であり、責任を持って教えることのできる教養教育の教員集団がいて、多様な問題を考えていける人材を養成していきたい。